

平成24年11月16日

気仙沼市長 菅原 茂 様

気仙沼市における防潮堤建設に関する
要 望 書

気仙沼市防潮堤を勉強する会
発起人一同

美しく青い海と緑溢れる大地に恵まれた気仙沼。古（いにしえ）の時代から、この地に住む私たちは家族を養い、暮らしを立てるために海と生きてきました。海は常に身近にあり、磯の匂いや波の音、海で働く人々の活気溢れる生活がそこに存在しています。海はまさに、私たちの生活の一部であり、かけがえのない財産です。

海は時に私たちに大きな災厄をももたらします。これまで何度となく地域を襲った津波災害は、私たちから多くのものを奪いました。しかしながら、私たちはそれでもその海を愛し、覚悟を持って海と共に生きる未来を選択します。この選択をする上で、津波災害への備えは未来永劫に万全でなければなりません。

津波防災はただ一つの防災機能によって実現可能なものではありません。複合的な防災機能が合致し、理想的に連動して初めて実現するものです。防潮堤は津波防災機能の一つですが、全てではありません。最良の津波防災対策を実現してくためには、防潮堤の持つ防災効果を熟知し、同時に弱点や地域生活、地域文化への影響等を熟考する必要があると考えます。そして、かけがえのない財産、この地で生きていく住民の生きる糧、エネルギーの源を失う事の無い様な結果を導き出さなければなりません。

今回、決定される防潮堤建設は地域の未来を大きく左右することとなります。私たち防潮堤を勉強する会は、復旧・復興を遅らせることなくしかしこの重大な意思決定のプロセスに住民が積極的に関わり住民自らが意思決定を行うために 13 回にわたる住民主体の勉強会を開催し、今般の防潮堤建設計画に関し多角的に検討を進めて参りました。

その成果を受け、私たち防潮堤を勉強する会発起人一同は、後世に遺恨、後悔を残さぬよう、私たちの子孫に、安全・安心な暮らしと先人たちが守り続けてきた気仙沼らしい環境・景観そして文化を残すために、防潮堤建設事業の各主体者に対し以下の要望を致します。

記

- 一、 今回の被災地域の多様性を考慮し、一律に設計高に従った防潮堤を建設するのではなく、地域の実情に合わせた防潮堤の整備を要望いたします。
- 一、 防潮堤の形状、位置及び高さの決定に際しては、海岸法や宮城県議会の決議等に盛り込まれている住民意見の反映・住民合意の尊重を必ず遵守していただくことを要望いたします。
- 一、 合意形成にあたっては、一つの案に対して是か非ではなく複数の選択肢を用意していただくことを要望いたします。
- 一、 住民が選択し易い、考え提案し易い環境づくりのためのわかりやすい情報提供、各説明会・意見交換会・設計・施工などの日程の早い段階での明示及び周知の徹底など説明会から建設までのプロセスにおいて、透明性の確保を要望いたします。
- 一、 防潮堤建設計画のみならず、市域の総合的な防災計画を早期に示していただくことを要望いたします。

気仙沼市防潮堤を勉強する会発起人名簿

(あいうえお順 敬称略)

浅倉 眞理	安藤 竜司	臼井 賢志	臼井 壯太郎
小野寺 邦夫	小野寺 靖忠	小山 裕隆	加藤 宣夫
勝倉 敏夫	勝倉 宏明	川村 賢壽	木戸浦 健敏
小松 武	昆野 直	坂本 正人	佐藤 亮輔
菅原 昭彦	高橋 和江	高橋 正樹	武山 健自
千田 満穂	千葉 一	塚本 卓	畠山 信
畠山 政則	馬場 康彦	三浦 友幸	宮井 和夫
村上 純一			